



八坂神社祇園祭が8月2日・3日に行われ、本町、上町、東町の3地区の子どもからお年寄りまで大勢が参加し、各地区のみこしや山車が軽快な囃子にあわせ町内を練り歩きました。

初日の2日、八坂神社に3地区の関係者が参集し「家内安全・産業の発展・子孫の繁栄」とまつりの無事と安全が祈願され祇園祭がスタートしました。その後みこしは、それぞれの町内を巡行し、東町ではみこしをみそぐ「川渡り」が行われました。

3日には、年番町の本町を先頭に3地区のみこしと囃子連が連なる三町合渡御が行われ、サビア横芝店を通過し終着地の横芝駅前広場へと向かい、祇園祭は最高潮を迎えました。

- ①本町では、大型トラックから滝のように担ぎ手に水を浴びせると、大きな歓声があがりました。
- ②上町は関係者が白い衣装でまつりを盛り上げました。
- ③女性も多く参加、彩りを添えました。
- ④関係者が八坂神社を詣で、祇園祭が始まりました。
- ⑤日が落ちて、まつりは熱くなるばかり
- ⑥みこしをみそぐ東町「川渡り」
- ⑦子どもたちは元気いっぱい！

舟みこしで最高潮！ しらはま夏まつり

白浜地区の夏まつりは7月26日に前夜祭、27日に「みこし渡御」が行われ、白浜地区を中心に舟みこしや女みこし、子どもみこしが、囃子とともに地区内を練り歩きました。まつり終盤には、木戸浜海岸で総重量300kgもの全国有数の大きさを誇る舟みこしが沖に向かって繰り出され、荒波にもまれながらみこしを担ぐ男衆と舟みこしに多くの人が歓声を上げ、まつりは大きな盛り上がりを見せました。



▲荒海へと向かう舟みこし